

STUDENT LIFE

週刊NY生活・アメリカの学校活動と学生ライフのページ



ミュンヘンにてジョンズ・ホプキンスの仲間たちと（筆者が一番右）

私の留学ライフ・

イン・USA

大学4年の夏、江ノ島 大学院へ進学したのは、
で夏休みを満喫中に受け 昔から留学に憧れていた
取った友人からの電話。とか、日本の枠に収まり
「・・・番号がないんだ 切らなかつたという理由
けど」。私がアメリカの ではなく、日本の大学院

に不合格した敗者復活戦
がきっかけでした。
語学学校に通いつつ大
学院出願準備に1年間費
やしたとは言え、進路直
後は英語力も乏しく、ま
た専門分野の基礎知識も
足りず、最初の大学院生
活1年目は文字通り部屋
に籠りつきりでした。ど
の授業も毎週・隔週ごと

ポットとハブティクスと
呼ばれる領域です。ハブ
ティクスとは触覚・力覚
を表す言葉で、物の手触
り感や手応え感を表現す
る研究分野です。なぜこ
の二つが結びつくのでし
ようか？現在、欧米を中
心に医療現場で遠隔操作
型のロボットが活躍して
います。医師がマスター

大学へ研究留学し、幸運
なことに私もその機会を
得ました。ドイツの教育
システムは日本ともアメ
リカとも異なり、非常に
多くのことを学びまし
た。研究面では良い共同
研究者を見つけたことが
でき、現在論文を執筆中
です。また、多数の企
業・研究所を訪問した
り、文化交流などを通し
て、大変貴重な経験を積
むことができました。
(ジョンズ・ホプキンス
大学機械工学科博士課程
山本智徳)

一年目はとにかく 大変だったけど：

に宿題を課されたため、
毎晩遅くまで机にかじり
付き、アパルトとスーパ
ーとキャンパス以外ほと
んど行く場所はありません
でした。しかしその成
果が認められ、1年目終
了の夏休み以降は授業料
全額免除と生活費の援助
を受けています。いまは
修士・博士一貫課程4年
目に入り、研究も大きな
局面を迎えています。

と呼ばれるロボットを操
作し、離れた場所にある
スレイブロボットが患者
を実際に手術します。遠
隔操作型の場合、スレイ
ブが感じる手応え感を医
師の操作するマスターに
返すことが困難です。医
師が実際に患者を手術し
ているような手応え感を
実現することが目標の一
つです。

今年の夏、私の所属す
る研究グループから7名
の学生がミュンヘン工科